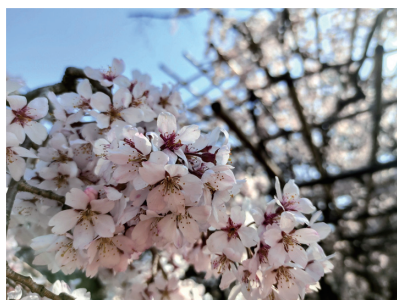




芽生えの季節、先を楽しみに



上段：学生会、詰所前にて
下段左：おぢばの桜
下段右：祝梅若人会



発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029 北海道
岩見沢市9条西6丁目21
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com
ホームページ
bariten.main.jp

夕張大教会
LINE 友達登録
お願いします

お知らせ

少年会夕張団総会 4月28日

全教一斉ひのきしんデー 4月29日

月次祭 5月15日(水) 9時30分開扉献饌

春の学生おぢば帰り、 桜の修養科生、 おやさま御誕生祭

三月の月次祭祭文において、私は親神様に、「この春、親里へ帰り集います学生層の道の子達が、親神様のお働きによって、どうかおぢばで喜びを頂戴出来ますよう、世話取り致します者一同、真剣に努めさせて頂きます。」とお誓い申し上げました。常日頃から絶え間ない愛情を以て、教会に寄り来る子供達、

中に安心してお過ごし頂き、人を助け、我が身も救かる、良き種の蒔き方を身に付けて下さいましたら、ご自分の将来に向け、何より心強いものと存じます。また、私が出会って四年目になるご身上の方が、年に一度のおぢば帰りをコツコツ三度続けた後、来月修養科をご志願下さる事となりましたが、無事におやさまにお連れ通り頂けますよう、私も腹を定めて自分のつとめに励みます。

教会に育つ子供達をお守り下さいます皆様方のお陰により、夕張としては久方ぶりに多数の学生おぢば帰りが叶い、「来年も来たいです」と喜んで下さる学生さんに、こちらが嬉しくなりました。

おやさまの二百二十六回目の御誕生日が4月18日です。甘露台を囲んでよるづたすけの「かぐらづとめ」が勤められ、祭典後には「よるこびの大合唱」が今年から再開されます。おぢばへお祝いに駆けつける方も、遠く北海道からお祝い申し上げる方も、この日は共に子供心に還って、おやさまをお慕い致しますよう。

青空に桜がよく映えるこの季節に、新たに修養科を志す方がおぢばへ帰って来て下さいました。朝の目覚めから、宵の眠気に至るまで、親神様のご守護の

大教会長 藤田大和

三日月次祭の模様

3月に入って、数日は暖かい日が続き、もうすぐ春の訪れか、と期待したのも束の間、冬の寒さが戻ってきて、再びの雪模様にげんなりした方も多い事と思う。15日の岩見沢は、夜半からの雪が10センチ以上積もり、朝の内の雪かきが必要な程であった。

定刻9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。その後、座りつとめ。十二下りのてをどりが勤められた。

祭典後には春季霊大祭が大教会長を齋主に執り行われた。この度はコロナ禍以降初めて各教会代表、各会代表参拝が行われ、それぞれの代表が霊様の前に参進し、思いを込めて参拝した。

講話には、月末に会長交代を控える、渡部恵子・善進道分教会長が壇上に上がり、「息子の任命講習が昨日終わりました、今日帰ってくるんですけども、全くタイムリーなご指名を頂きました。会長のお許しを頂いて21年目に入りましたけれども、卓哉会長の突然の出直、私が会長に、というのも突然でした。心の準備もありませんでしたが、お許しを頂いたからには『お前やってみろ』と神様に言われたように思い、ここまでやってきました。

就任してすぐに神殿普請が始まりまして、非常に大仕事でした。前会長夫妻は主任として詰所に居りましたし、

何度か戻ってくれましたが、いつも近くに来てくれる訳ではありませんでした。教会の畑として使っていたところ

は、実は教会のものではなかったんですね。ずっと使っていましたけれども、実は地主がいるんだよ、という事でした。会長も変わったんだし、ご挨拶に行かなきゃ、となりました。地主の方は老夫婦だったんですが、面識はほとんど無く、地代も払わずに使っていました。向こうとしては、使ってくれるんなら、どうぞどうぞ、という感じだったそうです。

しかし聞いてみると『明日になったら、他所に売ろうと思ってた』と言うんです。その場で『何とか売っていたく事は出来ませんか』と話しました。神殿普請の為に境内地の拡張の必要もお伝えすると、格安でお譲り頂きました。

当時は信者さん方も今より若く勢いはあるし、勇んでるから、数々の不思議を見せて頂きました。セラミックブロックについて、今どきの材料を使わせてもらったんですけど、それも格安で手に入れました。床材も、建材屋さんにも山ほどあって、こんなにあつてもいらない、との事。裁断されてないものなので、自分たちで切って調整しなければいけませんでしたが、持つていくならどうぞ、という話でした。こういった不思議をたくさん見せて頂きながら、無事に奉告祭の日を迎えられた事は、まさに感無量でした。

婦人会の方にも、お育て頂きました。



▲渡部恵子会長
神殿講話全文は、
右のQRから



美重子奥様時代が主ですが、何かと前に出る女でした。看板、といえば描かせて頂き、団参のしおり、といえば描かせて頂きました。踊る事があると、出てました(会場笑い)。お楽しみ行事、また大教会の厨房の改装、これも長年

思っていた事だったんですが、設計をさせて頂きました。使い良くなりまし

たか? 明るくなって、動きやすくなつて、本当に有難いばかりです。どれもみんな、私が好きな事だったので、楽しんでつとめさせてもらいました。一番力が入ったのは、夕張婦人会の四十周年ですか。お芝居をしたんです。覚えてらっしゃいますか、「はだし詣り」のお芝居。今日お越しの婦人さん達には、ほとんど出て頂きました。実は若い頃から演劇には興味があつて、小躍りするくらい嬉しくて。脚本を書き、音響もやって小道具も作って、要するに監督をやっちゃったんですね。本当にウキウキでやらせて頂きました。楽しかったですね。

道中には大切な大切な方々を、たくさん見送りました。勇めなくて眠れない事もあつたし、「もう無理かも...」と思つて、投げ出したくなった事もあ

ります。みなさんもそうですよね。それでも、丈夫な身体をお貸し頂いてます。親々の徳もあります。親神様・おやさまに導いて頂いて、病むところは卓哉さんが全部持つてつてくれたんだな、と思いつながら、家族とか信者さんとかお道の先輩方、そして若い人たちにも支えてもらつて、20年経ちました。今日、区切りとして皆さんにお礼を言う場を与えて下さった大教会長さんに感謝申し上げます。皆さま、今まで本当にありがとうございました。」と話した。

大教会長はあいさつで「善進道の會長さんは、今日26日には息子の辰大さんに理が継承されるということで、夕張全体としても非常に喜ばしい事と存じます。本当にいままでお疲れさまでした。

ひきよせに毎号載つておりましたが、祝梅分教会後継者の高橋悟志さんが、この3月で布教の家愛知寮を卒業して北海道に戻つて参ります。彼の凄いなあとと思うところは、一年の間、辛そうなる素振りを見せずに通り切ったところですね。また帰つて参りましたら、一年間の体験を皆さんに伝えてもらおうと思つています。

また今月は春の学生おぢばがえりがございます。学生層がおぢばに集まるとても大切な行事です。学担の委員長や学生会の富山優理委員長をはじめとする人達の尽力で、現在夕張からは8名の学生が参加を予定してくれています。

本日は、いつも元気なうちの母がこの場に居りません。数年前に手術した右足の回復が思うようではなく、この3月5日に再手術となり、現在入院中です。入院するたびに近くの患者さんにをいかけをして帰ってくる母です。今回もそんな風に声を掛けて友達を作ってくるんじゃないかと思ひます。それぞれの教会でも、合わせてお願いをして頂けると幸いです。」と話された。

祭典後には先月と同様に、食堂にて温かい丼が振舞われた。また女子青年のコーヒーショップも好評で、あつという間に売り切れになっていた。(藤崎)

新任教会長紹介

3月26日、善進道分教会、渡部辰大氏(39歳)が、御本部教祖殿にて教会長の理のお許しをいただかれた。コロナ禍を終えて、夕張部内初の任命お運びは、ようばく、信者はもちろん、少年会員もおぢばに多く集まり、当教会の更なる繁栄を予感させる喜びの時間となった。奉告祭は、5月19日、善進道分教会にて執行される。



新会長 渡部辰大

婦人会 女子青年例会

3月28日に、委員長富山知理(栗山)、副委員長大橋寧々(由仁)、会員富山朱理(栗山)の3人で女子青年の例会をおぢば(詰所)で開催しました。【写真⑤】

内容は「女子青年の3つのかどめ」についてそれぞれがどのような考えを持っているのか、また、今後学びたい事は何か、どのように活動していくか、というものでした。一人ずつ自分の意見を話し、聞く側は相槌や笑顔、共感を大切にしながらの傾聴を心がけ、お互いに楽しい練り合いが出来たと感じています。また、途中大教会長さんからも声をかけてもらい、少しの間ですが話を聞いてもらう事が出来ました。今回の練り合いで出たお互いの意見を取り入れて、今後の活動を進めていきたいと思います。

(富山知理委員長)

学生会 春の学生おぢばがえり

3月28日、本部中庭で春の学生おぢばがえりが開催され、夕張学生会(富山優理委員長)から8名が参加した。会員は、3月26日夕張詰所に集合し、オリエンテーションを実施。翌27日には本部朝づとめを参拝、同日夜には、夕張詰所談話室にて会食が行われ、お互いの近況などを語り合い交流を深めた。その後、東西泉水前広場で行われた、「春フェス(前夜祭)」に参加し、熱気あふれるステージに目を奪われ、大いに盛り上がった。

28日には、春の学生おぢばがえり式典に参加。お道を歩む全国の仲間と時間を共にし、それぞれの心に教祖からお土産をいただいた。式典終了後には、詰所に戻り直属アワーが行われた。大教会長さんのお話に信仰のぬくもりを改めて感じ、昼食では、大教会長さんが腕を振るったメキシコ料理をみんなでおいしくいただいた。その後は、趣向を凝らしたグループタイムで等身大の思いを語り合い、それぞれの信仰を深めた。【写真①、②】 (富山知一学生会担当者)



活動再開が本格化



各会活動報告

少年会 鼓笛練習会

3月30日10時から、鼓笛練習会が行われ、少年会員15名、育成会員17名、計32名が参加した。おつとめ練習では、座りづとめのお手を学び、その後、リトミック、各パート練習などが行われた。【写真④】昼食にはおいしい親子丼をみんなで仲良く食べて、自由時間には卓球やオセロなどで遊び、終始楽しい時間を過ごした。次回は、5月25日10時からの予定。(岩佐)

陽気に笑顔で道を歩む
人材の育成を目指して

青年会 あらきとうりよう入門塾

3月31日、大教会にて青年会あらきとうりよう入門塾が開講された。参加会員は5名と少し淋しい人数であったが、それを感じさせない程陽気に盛り上がった。

この日のメインイベントは『男の料理大会』。全員でスーパーに行き、決められた金額以内で食材を買って、それぞれ一品ずつ作る、というもの。お互いの様子を伺いつつも、頭の中で計算しながら食材をかごに入れる姿は、さながらベテラン主婦の様相。大教会に戻って、いざ調理開始。参加会員それぞれ心得があるのか、手際よく調理を進め、机の上には、定番のラーメンサラダや、水晶鶏(片栗粉をまぶし茹でた鶏肉)など、バリエーション豊かな料理が所せましと並べられた。出来上がった料理はどれもおいしく、審査を頼まれた大

教会長も、甲乙つけがたく判定に困ってしまうほどだった。その後全員でそれぞれの料理を食べ、互いの料理を褒め合って和やかな雰囲気昼食を取った。

午後からは外に出て神名流しを行った。【写真③】春近しとはいえ、未だ寒さ厳しく冷たい風が吹く中、目いっぱいの声でよろづよ八首を奉唱し、街行く人たちに神名を届けた。その後、皆で神殿掃除を行い、なかなか普段手の掛けられないところも綺麗に拭き上げ、日頃の感謝を念じながら勇んでひのきしんさせて頂いた。

最後に委員長から今後の会活動への積極的な参加と、6月30日に控える分会総会への声掛けのお願いがあり、参拝して閉講となった。長らく顔を合わせていなくても、青年会員がひとたび集えば、会話が生まれ、笑顔が生まれ、喜びが生まれる、という事を再確認した行事となった。(藤崎勇委員長)

「この頃、思ひ出す」
夕張大教会前会長 藤田文雄

教祖140年祭まであと2年を切るこの2月、私は75歳。後期高齢者になりました。ご守護と皆様のお陰で今に至ったことを感謝しています。

たすけあつて陽気に暮らすのが、人間の生きる目的と教えていただくので、私もそこを目指しています。

生きていく間、人は体を神様から借りています。感謝して精一杯生きて神様にお返しする時には、御礼で終わりたいと思います。そして再び身近なところに生まれ、戻ってくる教えます。これは証明できないことですが、人は必ず命に終わりが来るといふ明るさを含んだ教えます。生まれ変わるのですから、死ぬことを出直すという前向きな言葉で表しま

長かった布教の家の1年もついに最後の月となりました。愛知寮は3月18日が卒業日となります。

3月は10日にお世話になった方々と卒業団参参を行い、おちばへ参拜させていただきました。たくさんの方々に参加して頂き、最高の団参となりました。

11日から14日まで徒歩帰参を行い、寮生6人で4日間かけておちばへと歩きました。11日、13

す。新たな出発です。

私たちは、毎日何かの原因を作つて暮らしています。毎日、幸せのタネも不幸せのタネもまいています。それが自分の人生に生えるのです。運命とは、固定したものではなく、暮らし方や生き方で変わってくる。教えていただきます。人のせいではない。自分が原因を作つている。自分次第の人生です。しかし自分だけが原因でないこともあります。それは教えを学ぶうちに分かることです。

人間、生まれたからには幸せに生きたい。誰かを幸せにしたいと考えます。それなら今、毎日幸せのタネをまくこと。相手が幸せになるように生けると、結果は自分が幸せになります。

会長を辞職しても、私はようぼくです。ようぼくと、陽気暮らしの世界を作る御用材。年齢に関係なく、少しでも誰かが幸せになるよう働か

日は教会に泊まらせて頂き、12日は野宿をしました。雨の中、野宿をし、布団

とが無かつたので得難い経験をさせて頂きました。

3月中に通い先の方にあいさつ回りをさせていただきました。皆さんとても残念がってくれ、また名古屋に来たら顔出してねとあたたかい言葉をかけて頂きました。

この1年で、当たり前前に感じていたことを有難いと感じるようになったかと思えます。低心で通ることを教えてもらった1年でした。(完)

布教日誌 vol.11



で眠れることのがたみを感じました。歩いておちばへ帰ることはしたこ

せでもらう存在。

私の日常は、毎日教会でおつとめをして、信者さんのお宅を訪問する時は喜んで出かけます。妻は札美分教会長ですから私は配偶者、役員として準備片付けをします。楽しいものです。大教会では、月次祭に久しぶりに皆さんと出会うと嬉しくなりま

す。お互いの元気なこと、ありがたいうことを語り合うと喜びが溢れます。

現在、市内の「国道みまもりたい岩見沢」の会長、市内奉仕クラブでは会長をしたり、札幌刑務所では教誨師として、受刑者の更生復帰のお手伝いをしています。

また、以前から理事をしていた市内の保育園がありますが、この3月に理事長をせよということになりました。同じ時期、園長さんが入院してしまい辞職願ひを出されました。園のピンチです。急いで次期園長を決めなければなりません。毎日のよ

うに保育園に通い体制を整えているところ。理事は無給で奉仕します。自分がお役に立てるか疑問ですが、おかげになるかもしれませ

ん。ひのきしんの場所が与えられたと思つて今、取り組んでいるところ

です。

第42回祝梅若人会総会

3月24日(日)、祝梅分教会におきまして、若人会に携わる会員19名、教会・ひのきしんの方々19名、総勢38名がつどい、総会をつとめさせて頂きました。【写真表紙】

今年も感染症の感染拡大を防止するため、座りづとめ、よろづよ八首を執り行い、その後は会長さんがおちばのため、奥様から御祝辞をいただき、委員長の挨拶、記念撮影を短い時間で実施いたしました。従来通りの若人会総会とは

なりませんでした。今年も若人会総会を実施出来たことに対して大変嬉しく思っています。これもひとえに、教会・ひのきしんの方々やスタッフの方々のご支援とお力添えの賜物です。

この場を借りて深く感謝申し上げます。

今年度の行事も実施することが難しい事もあると思



3月25日廻廊ひのきしん

庶務部 3月

- ▽学生生徒修養会・大学の部 3・5〜8
- ・参加
- 富山 理雄 (栗山)
- 本部スタッフ
- 高橋都志子 (祝梅)
- ▽教会長任命講習 3・10〜14
- 渡部 辰大 (善進道)
- ▽お運び(任命) 3・26
- 渡部 辰大 (善進道)
- ▽修養科994期新入生 4・1〜
- 松尾終斗 (北張)
- ▽詰所教養掛
- 4月 藤田豊 (幌部)
- 5月 千葉祐生 (大龍)

大教会日誌抄 3月

- 1日 たすけ推進会議
- 8日 会長、地元中学校で卒業生へお祝いの言葉
- 10日 会長、祝梅巡教
- 15日 月次祭
- 17日 春季霊大祭
- 18日 会長、北夕巡教
- 22日 前会長、札幌刑務所教誨師
- 22日 会長、藤田嘉夫翁葬儀(〜23日)
- 26日 会長、おちばへ
- 26日 本部月次祭
- 26日 善進道分教会お運び
- 27日 会長夫人、おちばへ
- 27日 本部春季霊祭
- 27日 かなめ会
- 28日 春の学生おちばがえり、直属アワー
- 29日 会長夫人、帰会
- 30日 会館、帰会
- 31日 鼓笛練習日
- あらきとつりよう入門塾(青年会)